

収穫体験ツアー

・群馬県／渋川市
・開催時期：年2回

旬の農産物を収穫して農業への理解と興味を深める！

体験学習等のイベント内容

・渋川市で生産されている農作物の収穫体験を通じて、農業を身近に感じ理解を深めてもらいます。

・体験内容は、参加者が生産者のほ場に伺い、野菜の説明を聞いたり収穫の方法を教えてもらいながら、作物の収穫作業を体験します。また、体験終了後には、自分で収穫した作物の一部をお土産として分けていただき、収穫の楽しさを感じてもらいます。

・収穫体験には、毎回、市内外の家族連れから高齢の方まで幅広く参加があり、収穫作業を楽しんでいます。普段お店や食卓で目にしている作物が、渋川市内で生産されている身近な作物であることに気づいてもらったり、収穫作業を通じて生産者と交流を深める機会になったりと、農業に対する理解と興味を深めています。



体験先の紹介

渋川市内の農作物生産者のほ場に伺い収穫作業を体験します。旬の野菜や生産が盛んな作物、栽培が始まった新しい作物等、生産者に協力してもらい取り組んでいます。

（過去の収穫品目）

- | | |
|---------|---------|
| ・たまねぎ | ・リンゴ |
| ・じゃがいも | ・しいたけ |
| ・ブルーベリー | ・キャベツ 等 |

イベントに参加するには

広報紙および市ホームページにて収穫体験への参加（年2回・有料）を募集しています。

- ・取組主体等：渋川市
- ・問合せ先（TEL等）：0279-22-2593
- ・参考URL：<https://www.city.shibukawa.lg.jp/>



豊島区の親子が秩父で田植え・稲刈りを体験！

体験学習等のイベント内容

- ・秩父市では、東京都豊島区の消費生活センターが募集・決定した参加者（親子）に対して田植え・稲刈り体験を行っています。参加者の方は、普段口にしているお米がどのように作られるかを学びます。
- ・体験内容は、秩父市大田地区で親子そろっての田植えと稲刈りです。また、休憩時には地元産のお米で作ったおにぎり等を提供し、五感を使って秩父の農業を体感していただいています。
- ・この活動に豊島区の方が年間で延べ100名程度参加し、農業への理解を深めています。また、姉妹都市である豊島区と秩父市での交流を行うことで、都市と農山村のつながりを再認識する場となっています。



取組主体の紹介

取組主体である農事組合法人大田営農は、ウイスキーブランド「イチローズモルト」で知られる秩父市みどりが丘にあるベンチャーウイスキーに原料として大麦を提供するなど、地元の農業、産業の活性化に積極的に取り組んでいます。

イベントに参加するには

イベントの周知・募集は豊島区消費生活センターが実施しています。お問い合わせは下記へお願いいたします。

- ・取組主体等：農事組合法人大田営農・豊島区・秩父市
- ・問合せ先（TEL等）：03-4566-2416

（豊島区文化商工部生活産業課消費生活グループ）

・参考URL：
<https://www.city.toshima.lg.jp/124/kurashi/shohi/center/2005270958.html>（豊島区ホームページ）



家族で地元農家と交流しながら農業体験

体験学習等のイベント内容

・都市と農村の共生・交流の推進と、成田市農業の魅力のPRや地産地消の推進を目的に、市内の小学校に通う子供がいる家庭を対象に農業体験教室を行っています。

・体験教室に参加する家族は、春の植付から翌年3月まで、各家族に割り振られた区画で作物を育てます。はじめは教室を運営している成田市農業青年会議所がいくつか夏野菜の苗を用意しますが、空いた部分には各家族で好きな作物を栽培します。栽培方法等でわからないことがあれば体験教室の際や農業青年会議所メンバーが運営しているFacebookで質問することができます。また、秋には梨狩り、冬にはイチゴ狩りを農業青年会議所メンバーの農園で行います。年4回の教室の際には農作業の後に地元農産物の試食やアトラクション等を行っています。

・この活動には年間約20家族が参加し、地元農家との交流を深めています。



取組主体の紹介

取組主体である成田市農業青年会議所は、成田市内の45歳未満の農業者で構成されています。構成員の農家はイネ、サツマイモ、梨、イチゴ等様々な作物を栽培しています。この活動以外にも、地元のお祭りに積極的に参加し地元農産物のPRを行っています。

イベントに参加するには

毎年4月頃に「広報なりた」にて募集をしております。

・取組主体：成田市農業青年会議所（事務局：成田市役所農政課内）

・問合せ先（TEL等）：TEL 0476-20-1542

MAIL nosei@city.narita.chiba.jp

・参考URL：成田市農業青年会議所フェイスブック
https://m.facebook.com/naritashinougouseinennkaigisho/posts/?ref=page_internal&mt_nav=0

島内の小中学生が農業体験に参加し農作業や歴史文化を学習！

体験学習等のイベント内容

・八丈島は、伊豆諸島で唯一水田が開拓された島ですが、花き観葉植物栽培へと変わり水田の姿が消えつつあるなか、島内にはため池、水神社、水の碑等が現存し、当時の面影を残しています。このような歴史文化や美しい農村景観を保存、継承する目的で、田園空間整備事業により島内の小中学生のための体験場所として農園（水田）が整備されました。

・体験内容は、田植え及び収穫作業を地元農家からアドバイスをもらいながら行います。また、セレモニーとして「八丈太鼓」や「石投げ踊り」等の伝統芸能の披露があり、収穫したお米は参加者へ配布も行っています。

・この活動に島内の小中学生のみならず、大人の方も含め年間150人が参加し、中には何度も参加する方もおり、水田での農作業や歴史文化への造詣を深めています。



6月【田植えの部】

取組主体の紹介

取組主体である八丈島田園空間整備運営委員会（事務局：八丈町）は、「離島の水循環」をテーマに田園景観などを実物大の博物館として復元しました。その博物館の中核施設である「和泉親水公園」の中の一つが和泉体験農園（水田）となります。

委員会では、毎年イベントを実施してきており、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響で中止した昨年を除き、既に17回を数えます。

【石投げ踊り】



9月【収穫の部】



イベントに参加するには

開催日が決まりましたら島内のスーパーや公共施設にポスター掲示を行い募集しています。参加希望の方は当日会場までご来場ください。

・取組主体等：八丈島田園空間整備運営委員会

・問合せ先：八丈町産業観光課 Tel.04996-2-1125

・参考URL：

https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/sankan/sankan_denen.html

農業体験を通じて農作物を収穫する喜びと食の大切さを学ぶ！

体験学習等のイベント内容

- ・中井町では様々な分野の農業を体験できるように毎年3コースを実施しています。
- ・米コース 田植えから稲刈り
- ・夏コース ブルーベリー収穫等
- ・秋コース みかん収穫等
- ・米コースは田植え、草取り及び稲刈りまでのひと通りを体験できます。夏コース・秋コースは収穫体験を行っております。
- ・この事業は町内外の方が参加され、幅広い年齢の方々に農作物を収穫する喜びと食の大切さを体験していただいております。



取組主体の紹介

中井町では農業委員会委員・農地利用最適化推進委員の協力により収穫体験事業を毎年実施しております。この事業は参加者に中井町を知ってもらう良い機会であると考えていますので、継続的に実施しております。

また、小学校の授業の一環で米が出来るまでの体験も併せて実施しております。

イベントに参加するには

参加方法等は中井町HP（下記URL参照）をご覧ください。（有料）

・取組主体等：中井町 産業振興課

・問合せ先（TEL等）：0465-81-1115

・参考URL：

https://www.town.nakai.kanagawa.jp/forms/info/info.aspx?info_id=13290



いっしょにつくろう！いきものいっぱい農園

体験学習等のイベント内容

- ・自然豊かな早川町のほぼ中央に位置する三里地区では農業体験を通じて都市と農村をつなぎ、人と自然が共生する地域づくりに取り組んでいます。
- ・毎月1～2回、2泊3日で東京からの送迎バス付きの「バス活動日」を設けて、共同生活をしながら楽しく農業体験を行っています。野菜の収穫以外にも土作りやマルチシート張りなど、普段なかなか体験できない様々な畑作業をその人のペースに合わせて無理せず体験できます。
- ・また、作業の中心となる生物の多様性や生態系に配慮した「いきものいっぱい農園」は、すみかとなる草むらを残し、コンパニオンプランツを利用することで、農薬を使わず草と昆虫が共生する畑作りを実現しています。
- ・この活動には年間300人程の申し込みがあり、交流イベントには地域住民の方々も積極的に参加しています。



取組主体の紹介

取組主体である早川エコファームは地元でとれた新鮮野菜を扱う直売所「おばあちゃんたちの店」の運営や早川集落伝統の味噌造りを復活させるなど地域の活性化に取り組んでいます。

イベントに参加するには

NPO法人早川エコファームのHPから会員登録申し込みをすることで農業体験に参加できます。

- ・取組主体等：NPO法人早川エコファーム
- ・問合せ先（TEL）：0556-48-2817
- ・参考URL：<http://eco-farm.or.jp/>



松明をかがげ、晩夏の夕暮れ時に棚田の畦道を練り歩く♪

体験学習等のイベント内容

【田植・稲刈り体験】

・普段農作業と縁の無い都会の小中学生や、棚田に足を運ぶ機会のない地域の子供達に、棚田の存在を知ってもらおうと共に、手植えによる水の温度や土の手触り、里山の風など、五感を働かせて体験してもらいます。

・ベテランの委員の指導により、田植えや稲刈りを体験できます。銀座中学校を始め、都心部の学校も数多く受け入れています。

【ししおどし】

・香川県小豆島 中山千枚田の伝統行事「虫送り」を参考に、同地の助言も頂きながら令和2年に初開催。竹で作った松明に火をつけ、害虫駆除・五穀豊穡を祈願して棚田内を練り歩きます。地域で長く続く伝統行事に共に育てながら、農村文化を学ぶ体験型のイベントです。



「ししおどし」

取組主体の紹介

『稲倉の棚田保全委員会』は、「日本の棚田百選」（農林水産省 平成11年）にも認定された稲倉の棚田を舞台に、棚田の保全活動に取り組んでいます。今回紹介した活動以外にも、地元酒蔵の岡崎酒造(株)と連携した「酒米オーナー」での搾りたて日本酒の直汲み体験や、北アルプスと上田市街を望む眺望を活用したアウトドアフィールド「棚田キャンプ」など、新たな取組に積極的に挑戦しています。

イベントに参加するには

随時、小中学校や保育園等から学校課外学習の申し込みを受け付けています。「ししおどし」は棚田オーナー限定のため、まずは春までに棚田オーナーへの入会を！（どちらも有料です。）

- ・取組主体等：稲倉の棚田保全委員会 オーナー事務局
(上田市役所農林部 農山物マーケティング推進室)
- ・問合せ先（TEL等）：0268-21-0053
- ・参考URL：<https://inaguranotanada.jimdofree.com/>



棚田で、
自然環境と食育学習

稲倉の棚田
学校課外学習
概要書



↑「棚田キャンプ」



姨捨の棚田「田植え・稲刈り体験」

たごと

芭蕉も詠んだ「田毎の月」日本遺産の棚田で農作業体験♪

体験学習等のイベント内容

【田植・稲刈り体験】

・普段農作業と縁の無い都会の小中学生や、棚田に足を運ぶ機会のない地域の子供達に、棚田の存在を知ってもらうと共に、食と農の重要性を学んでいただけます。

・保育園や小・中学生による体験教室では、保全団体の農家からアドバイスを受けながら田植えや収穫を体験します。地元の中学校には、姨捨の棚田を舞台に地域の活性化について研究しているグループもあります。

・近年はコロナ禍で参加が難しい情勢下ではありますが、例年保育園や小中学生の体験として年間500人が参加しており、秋には収穫祭も開催し地元農家との交流を深めています。



- ・田植え体験
- ・稲刈り体験
- ・脱穀体験

地元学校から多くの参加があり、棚田の保全に取り組んでくれています。



取組主体の紹介

姨捨の棚田は「日本の棚田百選」（平成11年）や、「月の都千曲」として「日本遺産」（令和2年）にも認定された、歴史と文化ある棚田です。また善光寺平を一望できる眺望も抜群で、JR姨捨駅からの眺めは日本三大車窓にも選ばれています。『千曲市棚田保全推進会議』では、この貴重な棚田を後世に残すためオーナー制度等の保全活動に取り組んでおり、収穫された「姨捨の棚田米」は全国食味鑑定コンクールで「プレミアム米」に認定されています。

イベントに参加するには

随時、小中学校や保育園等から田植え・稲刈り体験の申し込みを受け付けています。ご家族や会社仲間の皆様は「棚田貸します制度」（棚田オーナー制度）へお申し込み下さい。（いずれも有料です。）

- ・取組主体等：千曲市棚田保全推進会議
(千曲市役所経済部農林課)
- ・問合せ先（TEL等）：026-273-1111（内線3281）
- ・参考URL：<https://chikuma-kanko.com/>

千框棚田で米づくり体験

・静岡県／菊川市
・開催時期：通年

農業体験を通じて棚田を保全し 里山の景観を守る！

体験学習等のイベント内容

・千框棚田では、棚田オーナー制度により、春の田植え準備・田植え・草刈り・稲刈りなど年間を通じて農作業を体験することができます。また、スガイ作り、しめ縄作り、生きもの教室や茶草場農法体験、紅茶づくりなど、多くのイベントにも参加することができます。

・農作業体験やイベントでは、絶滅危惧種でもあるニホンアカガエルや在来種の植物など棚田の生きもの観察を通じて、棚田の多面的機能、生物の多様性を学びます。棚田の歴史やその役割についても知ることができます。

・この地域では世界農業遺産に認定されている「静岡の茶草場農法」というお茶づくりが行われており、これは茶草場（採草地）のススキなどを茶畑の畝間に敷く農法です。せんがまち棚田では、イベントを通じて茶草場農法について学ぶことができます。人が農業によって手を入れることで自然が守られており、棚田と周辺の茶草場には多種多様な動植物が住んでいることに気づかされます。

・千框棚田は、オーナーの保全活動だけでなく、学生の研究や企業の研修の場にもなっており、これらの活動が貴重な里山の景観を守ることに繋がっています。



取組主体の紹介

取組主体であるNPO法人せんがまち棚田倶楽部は、「日本の原風景棚田を守り、先人の苦労を肌で感じ、子ども達に伝えていこう」と、地域の農家が中心となって、設立されました。この棚田は千枚の田んぼという意味から「千框＝せんがまち」と呼ばれており、最盛期には3,000枚もあったと言われています。この名前の由来となっている多数の棚田の復元・保全と棚田文化の伝承、地域振興を目指して活動しています。

また、静岡大学棚田研究会の学生さんたちもNPOと連携し棚田の保全に取り組んでおり、棚田活動のサポートをしています。

イベントに参加するには

ホームページ「棚田いこうよ.net」で検索し、お問い合わせフォームから御連絡下さい。

(URL) <https://www.tanada1504.net/>

年間を通じて体験できる棚田オーナーや、賛助会員も募集しています。

